

# 紙おむつリサイクル工場稼働

## 大牟田 焼却せず水溶化は全国 エコタウン

大牟田市健老町の大牟田エコタウンに進出したトータルケア・システム(株)(本社・福岡市博多区、資本金一億二百万円、長武社長)の紙おむつリサイクル工場「ラブ・フォレスト大牟田」が二十五日、本格稼働し報道関係者などに工場が披露された。使用済み紙おむつを焼却せず、水溶化でリサイクルする施設としては全国で初めて。世界でもオランダに続き二例目。

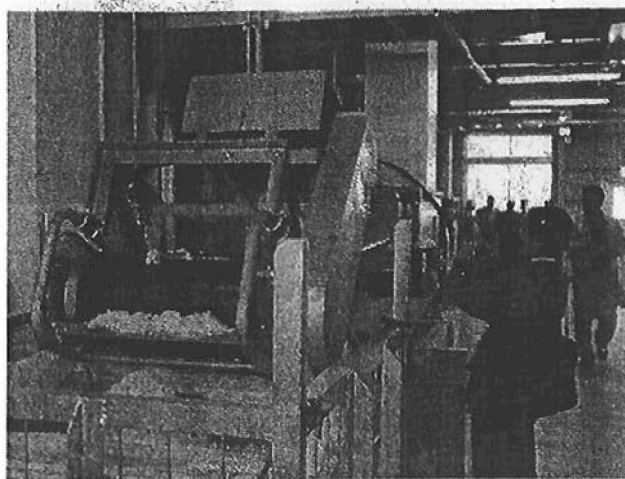
この紙おむつリサイクル工場は、大牟田市とエコタウンへの協定を締結。同年七月、工場が高齢者福祉施設の使用済み紙おむつを、水溶化処理でパルプを分離・回収する。工場では高齢化の進展に伴い、排出量の増加などへの再資源化を目指す。使用済み紙おむつ

が決定。同年七月、工場が高齢者福祉施設の使用済み紙おむつを、水溶化処理でパルプを分離・回収する。工場では高齢化の進展に伴い、排出量の増加などへの再資源化を目指す。使用済み紙おむつ

を分離槽でビニールとパルプに分け、パルプは上質と低質に分別し、洗浄槽や脱水機で上質パルプは再生紙おむつ、パルプモールド(卵や果物の緩衝材)、スラグ石こう板(建設用防火板)、低質パルプは土壌改良材にリサイクルする。

工場を訪れた人たちは、脱水や洗浄の工程を経た上質パルプや展示された再生紙おむつ、パルプモールド、スラグ石こう板を見ていた。

(富安 龍介)



披露された紙おむつリサイクル工場「ラブ・フォレスト大牟田」

パルプを回収し、再生パルプとして販売するが、当面はパルプモールド、スラグ石こう板に利用する。最終的には紙おむつから紙おむつの再生を目指す。

環境創造新産業特区の特例措置(土地開発公社所有の造成地の貸付)の適用を最初に受け、国や県、市の公的補助金も活用するなど、行政との連携を図り、コスト削減の抑制を図っている。